

古今和歌集

全

特43-482



1200800199558

特43

482



始



奈良名所案内詞
見たりとて編纂

奈良名所案内詞

坂田縣文庫蔵

奈良名所案内詞自序

奈良は美術の淵源にして山は翠に花は紅なる閑雅秀麗の名區なり
人々云ふ技術家たるもの一度奈良に遊ばざれば眞に技術家と云ふ
を得ざるは我も誇り人も聽す所なり誠ニ帝國奈良博物館の設け
る所以なきにあらざるなり、いへる秀麗の名區にしられを今は鐵
道全通して來往便利なる明治の御世となりければ海の外の人を
を杖を此地に曳きて、ふるまひむしの跡所を尋ね見むるに就き
ては思はる古今の感に堪へざるよりして其起原沿革を知らんとて
奈良地誌はと問はる先づ三才圖會、舊蹟幽考大和誌、名所圖會また
金澤南峯翁の坊目考などの詳しく書れたるものはあるも孰れも携

帶に便ならざ又案内者あるも其説く所俗傳の多きに過ぎて問者の意に充たす能はざるを以て或は思ひを残しつつ空しく立去る人も尠からん余常に遺憾とし且つ他に思旨のありて先般此書を編纂して某等に與へ尙後來遊者の榮ふもと新聞に搭載せることゝいなり然るに此度阪田氏の請によりて遂に冊子といなしめ、茲に此書ハ社寺の創立沿革并佛像の原質傳來等を殊更み兒童の耳にも聴きとれ易からむを旨とし物せしなれば勉めて卑言俗字を用ゆるなり看者幸に其拙を咎むなくんハ幸甚

明治壬辰の歲七月念一

編者 志る

緒言

先奈良の成立よりお話致します此地は今より二千五十年前八皇九代 開化天皇様が其元年都を春日率川宮に遷し歴史にあり升が春日と申すは此地の事で其ころはまだ奈良と申しません此 天皇様の位に在すと六十年ばかりで崩御なりました其御陵は春日率川阪上陵と申て油阪町にあり升其次は十代 崇神天皇と申て三年都を磯城に遷とあつて其地式上郡三輪の東南。志紀御縣神社の西でゐる此 天皇様が都を遷になりましてより此地はあはれて、田畑となつたものと思はれ升サテ又平城の都と申すは 崇神天皇様より八百二十年後で今を距ると千百八十三年以前の事で人皇は四十三代 元明天皇様が和銅三年に都を平城に遷とありまは此地より一里西二條村といふ所に内裡跡と申て今に其跡などありて殊に大な宮城であつたそうでござるサテ此の宮城にまして天下を治め給ひし御門は元明。元正。聖武。孝謙。淳仁。稱徳。光仁と御七代まして七十四年が間の皇居でこれが即ち奈良の都と申す其次は五十代 桓武天皇様が延暦三年に都を山城國長岡へ遷幸なりましたは今より千九百年以前のことでござるサテ此の御七代

の間は實に文明開化の御代で大したものであつたろうです今其一二を申さば先般若寺興福寺。元興寺。東大寺。新藥師寺。春日神社。手向山神社。法隆寺。藥師寺。西大寺。法華寺。大安寺。岩淵寺。招提寺等ありて其内一二は以前よりあつた寺もありすれど多くは此七御代の時に建立なつたもので奈良より五六里の間は堂塔たてつみて軒傳に行けば雨に濡ぬと云ふた程で盛なものであつたさうでありす又興福寺は諸國に知行所があつて數十万石の寺領になつたさうです又東大寺も同じく諸方に寄附田地がありまして是も數十万石年々納まつたもので其盛んなる御時節に出来ました堂塔。佛像。什物。書畫の美術に驚きて實に千百年以前の文明開化が明かにわかりますそれへ學者達や美術家などは是非とも奈良へいて古物を見なければ其當時の事がわからぬと申て各位お越になる譯でありすサテ奈良は日本美術の淵源で一大博物館といふて宜ひ西洋での羅馬じやと西洋人が申ております私は分りませんが其筋より御調べになつた事もあり又學者先生達が感心なされて餘國では迎も見られぬ名品であると申されましたサテ是より次々其所にてお話し申ませう

奈良名所案内詞目次

(一) 猿澤池	(三) 車舎屋	(五) 如意石	(七) 水谷社
(二) 采女社	(四) 二の鳥居	(六) 南門	(八) 水谷川
(三) 衣掛柳	(五) 祓戸神社	(七) 御手洗川	(九) 三笠山
(四) 菩提院	(六) 疊石	(八) 直會殿	(一〇) 若艸山
(五) 大鳥居	(七) 神垣森	(九) 幣殿	(一一) 手向若宮
(六) 薪能	(八) 藤の鳥居	(一〇) りんの庭	(一二) 手向山神社
(七) 馬出の橋	(九) 着到殿	(一一) 稻垣	(一三) 三月堂
(八) 御旅所	(一〇) 手水の家	(一二) 樓門	(一四) 二月堂
(九) 飛火野	(一一) 白藤の滝	(一三) ねじり廊	(一五) 良辨杉
(一〇) 野守鏡	(一二) 三十八所祠	(一四) 遷殿	(一六) 若狹井
(一一) 雪消の澤	(一三) 春日若宮	(一五) 寶藏	(一七) 若狹井
(一二) 鹿道	(一四) 布生橋	(一六) 祈禱所	(一八) 三昧堂

奈良名所案内詞目次

(一) 念佛堂	(二) 開山堂	(三) 氷室神社	(四) 十輪院
(五) 行基堂	(六) 西大寺門	(七) 八重櫻	(八) 新藥師寺
(九) 淨土堂	(十) 佐十保川	(十一) 大湯屋	(十二) 鏡明神
(十三) 鐘樓	(十四) 北山十八間戸	(十五) 二基の塔跡	(十六) 高圓山
(十七) 大佛殿	(十八) 般若寺	(十九) 五重の塔	(二十) 白毫寺
(二十一) 金銅燈	(二十二) 雲井坂	(二十三) 花の松	(二十四) 龍王坂
(二十五) 藥産館	(二十六) 藤の橋	(二十七) 興福寺	(二十八) 額山輪塔
(二十九) 南大門	(三十) 帝國奈良博物館	(三十一) 極樂院	(三十二) 平家寺

奈良名所案内詞

鳥居武平 編集

(一) 猿澤池 猿澤の池の月と申て奈良八景の一つでござりますサテ此池は天竺の圓藏池

を移したと云ひ傳へます圓藏とはヒヒと申猿の事也へ猿澤池とは名づけたものでありませう天竺の圓藏池のいはれはあまり長くなりすから申ませんむかし奈良の帝につかへます采女がありましたサテこの采女とは人の名ではない役の名也御所の節會などに配膳する役でござります其采女がうらむ事のありまして此池へ身を投げたでござります御門開しめされてあわれな事におぼしめし池のはどりへみゆきなりをした其時柿本人麿の歌に

わきも子がぬくたれ髪を猿澤の池の玉薬と見るぞかなしき
御門の御歌に

(二) 猿澤の池もつらしなわきも子がたまもかつかは水そひなまし
采女の社 采女さる澤の池に身を投げました池を恨みをするで社を西向にたてまし

と俱に營造た、又八十八代 後深草天皇正嘉中に焼ました其時も樓門、經藏、石塔婆は殘たでござる、八十九代 龜山天皇文永六年に復興ました、百四代 後土御門天皇延徳二年回祿、其後造立、百七代 正親町天皇永祿十年松永久秀の爲に毀ましたが樓門、經藏、石塔婆は殘ました寛文年中當寺の高任、高榮と申す二法師、相謀りて文珠堂營興ました、今の堂は即ち是でござる

觀音堂 此は舊經藏でござる今安置する觀音の木像は名作でござる岩淵寺勸操僧都の作と申傳へます

十三級石塔婆 高さ五丈餘

聖武天皇御建立なり、天皇親紺紙金泥の大般若經一部を書せ給ひて臺裡に安置し給ふと云、又露盤に開浮檀金の釋迦佛を安と申傳へます

樓門 古建立でござる、扁額は般若寺の三字、嵯峨天皇宸筆或云空海法師の筆と申す有名な物でござる

大般若經櫃 は九十六代 光嚴天皇の正慶元年に大塔宮護良親王當寺に忍ばせ給と

き此經櫃に潜居して危難を免れ給ひしなり今尙保存してござる

(三) 雲井坂 雲井坂の雨と申して奈良八景の一でござるがうればひかしの事で此街道は奈良の都の時分の京極の大路でありました

(三) 藤の橋 (押上町威徳井橋是なり)

とゞろきの橋の行人と申して矢張り八景の一でござる

(三) 帝國奈良博物館 日本三博物館の一でござります

此邊に寶藏院と申がありました世に此寺を鎌寶藏院と申す其譯は永祿元龜のころ此寺の覺禪胤榮は學者であつて僧中に信用あつたで當時亂世でありました常に武備を心掛けてられました或とき鹿のつゝあひするをみて十文字鎗の使ひ方を發明し遂に一流の元祖となりました覺禪を荒藤摩と云ひはやしました一山は申せでもなく海内に門弟か澤山ありましたむかし興福寺の僧侶軍に強かつたは其嘗で

(三) 氷室神社 祭神は額田中彦命 大鷦鷯命

(三) 八重櫻 今は師範學校の門内にあります、此所はもと東園堂の舊地でござる此櫻御

一新後すたつてござりましたが博覽會社が碑を建て石柵を設け八重櫻の新樹を植へました事でゐる

昔一條帝の御時八重櫻を奉りたるに歌よめと仰せられしに伊勢大輔

いにしへの奈良の都の八重櫻けふ九重にはひぬるかな

とよまれました此花は殊に名花でゐります

(五) 大湯屋 これは往古の浴室でありました中に大釜が一つゐります口徑四尺五寸胴の廻り六尺一寸高サ四尺一寸厚サ二寸五分あります

此建ものは應永年間に仮建しました儘でござる

(六) 二基の塔跡 東塔西塔の二つ有まして東塔を本と御願といひまして釋迦地蔵を安置しましたでござる西塔は新御願と申て釋迦地蔵文の五佛を安置して有たでござる其佛は皆銀の御像で有たと申傳へます此塔の焼失しましたは應永十八年で今より四百八十二年の昔しであります

(七) 五重の塔 東方藥師、南方釋迦、西方彌陀、北方寶生等の如來を安置してゐります

塔の高サ十五丈一尺でござる、云ひ傳へには興福寺の境内は四町四方でござりますゆゑ四四の十六丈とするはづでござります處が春日の御社より高うなるやゑ尺度をへらしたと申す事であります

此塔は今より四百七十四年前應永廿六年の建築で中々格好がよろしいと稱美する御方が多いでござります

(八) 花の松 此松は弘法大師が東金堂の本尊へ手向の爲め植たと云ふ傳へですが實は廣

靈佐次右衛門と云ふ人が先祖菩提の爲に植たものと申す今より二百年前元祿年間

の事でゐる高サ十四間枝十八間あります

(九) 興福寺 一名春日寺といひ山階寺といひ底阪寺といふ南都七大寺の一で宗旨は法相

宗でござります此寺はじめ山城國宇治郡小野郷にあつたもので今より千二百二十四年前人皇は三十九代 天智天皇様の八年に大織冠鎌足公が建立で山階寺と申ました其後三年目が四十代で 天武天皇様の白鳳元年に大和國高市郡飛鳥と申す所へうつしをして底阪寺と申ました其後四十三代 元明天皇様の和銅三年今より千八百八十三年前此